

酒田市都市計画マスタープラン（案）に係る意見募集の実施結果

1 概要

(1) 募集期間

平成 31 年 1 月 18 日（金）から 2 月 6 日（水）まで

(2) 意見提出者

1 名（電子メールでの提出）、意見総数 1 件（8 項目）

2 酒田市都市計画マスタープラン（案）について提出された意見

番号	ご意見（原文）	本市の考え方
1	総合文化センターが図書館を抜け出すことで、総合でなく単なる文化センターとなり、文化ゾーンの二極化を形成し、コンパクトでバランスの良い市街地ではなくなりませんか。利便性の上からも、文化施設と公共施設のゾーンは区画を一緒にするのが理想ではないか。	<p>酒田駅前に整備する「酒田コミュニケーションポート（仮称）」には、現在、総合文化センター内に設置している図書館機能を当該地に移転し、図書提供サービスを通じた知識・情報の習得はもとより、同地区内に併設するホテル、観光情報センター、バス待合所、マンション、広場等とともに、酒田市内外の多くの世代の人々との交流促進ができる新たなにぎわい交流拠点として生まれ変わります。</p> <p>図書館移転後の総合文化センターにつきましては、現在の生涯学習の成果発表の場、各種サークル活動の拠点等の市民の文化活動に対する支援機能を維持していくとともに、市全体の公共施設の適正配置やアセットマネジメントを加味しながら、施設全体の有効な利活用について、引き続き検討していきます。</p>
2	美しい海岸線と海岸林は市民の誇りであり憩いの場である、ここに風車を建設されることは、地球温暖化対策や利益追求を優先して「つながりと調和が織りなす共創のまち酒田」のイメージと合わないのではないのか。	<p>庄内砂丘とクロマツ林をはじめ、日本海、最上川、鳥海山、庄内平野などの豊かな自然は、酒田を象徴する貴重な資源であり、ご指摘いただきましたクロマツ林などは、先人たちの幾多の苦労と努力の積み重ねによって今に遺される歴史・文化的な景観資源でもあります。</p> <p>将来都市像として定めた「つながりと調和が織りなす 共創のまち酒田」の中の「調和」には、市街地・郊外部・中山間地の生活・歴史・自然の融合を図っていく意味合いが込められており、自然を保全していきながらも活用し、人々の営みに必要な人工物（例示いただいた風車も含めて）とも共存、融合を図りながら都市を形成していくこ</p>

		とが必要であると捉えており、イメージが異なるものではないと考えております。
3	主要拠点連携軸が駅周辺からとあるが、駅前と駅裏を繋げて八幡方面との広域連帯軸と合わせた計画をしないと効果がないと思う。	<p>本計画では、広域的都市機能拠点である「酒田駅周辺地区」と「中町周辺地区」と「日本海総合病院周辺地区」をつなぐ道路・公共交通（路線バス等）を「主要拠点連携軸」として位置づけ、異なる特性を持つ地区間の連携強化を図り、円滑・効率的な都市サービスの提供を図るものです。</p> <p>将来都市構造上の都市軸としては、その機能等の違いから、「主要拠点連携軸」のほか、「広域連携軸」、「地域間連携軸」の3つに区分し、八幡、松山、平田地域の各地域生活拠点と中心拠点を結ぶ道路や公共交通は「地域間連携軸」として位置づけています。</p> <p>駅前と駅東を繋ぐ新たな道路の整備は困難な状況ですので、本計画に示す既存の道路ネットワークの維持・充実を推進していくことで、人口減少する中でも都市活力の維持・向上を図り、誰もが住みやすい・住み続けられる都市の実現につなげていきます。</p>
4	「コンパクト+ネットワークの都市構造」とはどのようなものか市内案内図に施設間の歩くコース等を入れて説明してもらいたい。	<p>本市が目指す「将来都市構造」は、単なる一極集中のコンパクトシティではなく、既存の機能集積や拠点性を有効活用し、地域間・拠点間を道路や公共交通等をつなぐ「コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造」です。</p> <p>具体的には、中心拠点の機能強化や低未利用地対策を図るとともに、その周辺を取り囲む住宅市街地の良好な住環境を守っていくことで、これまでに形成してきた「コンパクト」な市街地を維持していくこと。また、各地域における生活を支える拠点の機能維持や自然・歴史・文化を活かした都市づくりを進め、生活拠点と中心拠点の地域間や、市内各所の拠点を結ぶ交通ネットワークの維持・充実を推進していくというものです。</p> <p>こうした本市が目指す都市構造を「酒田市の木」である「ケヤキ」の姿に例え、計画書の18頁に「けやき型都市構造」として図示しています。計画書の19頁に上記の方針の概念図を、さらに地図として表したものが24頁及び25頁に示す将来都市構造図です。</p>
5	庄内砂丘・クロマツ林は単に自然景観だけではなく、歴史的、文化的景観にも入るもの。	本計画では、景観資源を自然景観、歴史的・文化的景観、市街地景観の3つの景観構成に区分しています。

		先人が長い年月と多くの苦勞により形成した、クロマツ林の歴史的背景を踏まえながら、庄内砂丘などの景観資源と一体となり、庄内海岸砂防林として酒田を特徴づける魅力ある自然環境を形成していることから、本計画では、自然景観の景観資源として記載しています。
6	「けやき型都市構造」であるが、葉は幹を太らせる役だけでなく、都市から豊かな自然の中で農を志す若者が定住される場であり、葉の多様性を活かして欲しい。	「けやき型都市構造」は、樹形を地域間の連携に準えたものであり、単なる一極集中ではない将来都市の姿を、水分や養分が根や幹、枝、葉を通じて樹全体にいきわたる様により表現したものです。けやきの「葉」は、将来都市構造の土地利用区分における自然環境保全ゾーンと田園共生ゾーンを表しています。この2つのゾーンでは、農業振興や観光交流人口の拡大、定住策による良好な集落環境の維持に努めることや、自然などの地域の特色を活かした交流促進を図ろうとするものです。
7	「田舎暮らし」の絶対条件に景観の維持がある。「酒田市全域が公園」や景観法の早期取り入れなど酒田市は景観の先進地である。景観形成の方針に各景観施策の一体化と多様な景観資源を活かした具体策を提示して欲しい。	景観の方針は、景観の基本的な考え方に基づき、景観形成のための方針を定めたものです。 個々の施策の実施に当たっては景観の方針に留意すると共に、酒田市景観計画と連携しながら、酒田らしい景観の形成・保全に向けた総合的な施策や事業を積極的に進めることとしています。
8	このプランの成立経緯をみると、まず不特定多数の市民の要請、専門家のアドバイス、それを役所が纏め、各組織の代表者による審議会で承認された模範的な内容が網羅されているが、全体が提案型で具体的な施策方針が薄い気がする。「酒田丸」の個性が乏しく、船長の意気が感じられない。	本計画は、上位計画である酒田市総合計画と国土利用計画などに即し、本市が目指す都市の将来像を示すと共に、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針を定めたものです。 本計画の実現に向けた都市づくりの推進に当たっては、この方針に基づいて個別的、具体的な事業計画等を立案・具現化し、関係機関等と連携して、事業等の推進を図ることとしています。

3 酒田市都市計画マスタープラン（案）への反映

提出いただいたご意見に基づく酒田市都市計画マスタープラン（案）への反映は行いません。